

武尊岳山行報告

2010 年 4 月 17 日(土)18 日(日)

救急部 矢作直樹先生

M4 只左一也

1 日目 (4 月 17 日(土))

起床	05:30	
旭小屋		09:10 発
川場谷避難小屋	10:50 着/発	
分岐	11:40 着	12:00 発
天狗尾根	14:10 着/発	
前武尊岳	15:15 着/発	
剣ヶ峰 最初の岩峰	15:30 着/発	
剣ヶ峰 2 つ目の岩峰	16:30 着/発	
剣ヶ峰 3 つ目の岩峰	16:55 着/発	
幕営地	17:30 着 (幕営)	
(歩行時間 : 約 7 時間半)		

16 日金曜日の夕方移動して、沼田駅で合流。電車で揺られていると高崎を過ぎてから雨が雪に変わった。すでにうっすらと雪が積もっている。タクシーで登山口の避難小屋に向かうが、次第に積雪が深くなり、途中でチェーンが必要となるほどだった。このコンディションでは不動岩経由のルートは厳しいので、川場避難小屋の方から登るつもりで避難小屋へ向かうが、林道は雪が深くて進めなかったのので、引き返して、旭小屋に泊まった。きれいで快適な避難小屋だった。

17 日、朝起きるとまだ雪は降り続いていた。しかし、予報よりも天気回復は早そうと、次第に雪が小降りになり空が明るくなってきた。ゆっくりしているうちにすっかり雪がやみ、青空が覗き、小屋の中に日が差し込んできた。

9 時過ぎに小屋を出ると、新雪が 20cm 以上積もっている。車道を歩いていると、スキー場に向かうと思われる県外ナンバーの車がたくさん追い越して行く。林道に入ると、新雪が膝の下まであって、歩きにくい。川場野営場避難小屋まで、予定の倍の時間がかかってしまった。その先も湿った新雪でなかなか進まない。

不動岩方面との分岐から急斜面となるが、新雪が中途半端に積もって、アイゼンをつけていても歩きにくい。気温が上がって新雪がかなり溶けていたのでラッセルにならずに済んだのは幸いだった。朝は晴れていたのに、稜線は次第に雲に覆われてしまった。

小休止を取りながら登って行くと、隣のスキー場（オグナスキー場）から音楽が尾根越しに響いてきた。尾根に上がると、スキー場の音楽がうるさい。すっかり気分を壊されてしまった。

尾根を登って行くと、スキー場の上端部が右手に現れた。結構人が多い。さらに尾根を進み、3 時過ぎにようやく前武尊岳山頂に到着。日本武尊の銅像が立っていた。広い尾根で幕営にいい場所もあったが、この先の岩場を残すと翌日がきつくなるので、先に進むことにした。

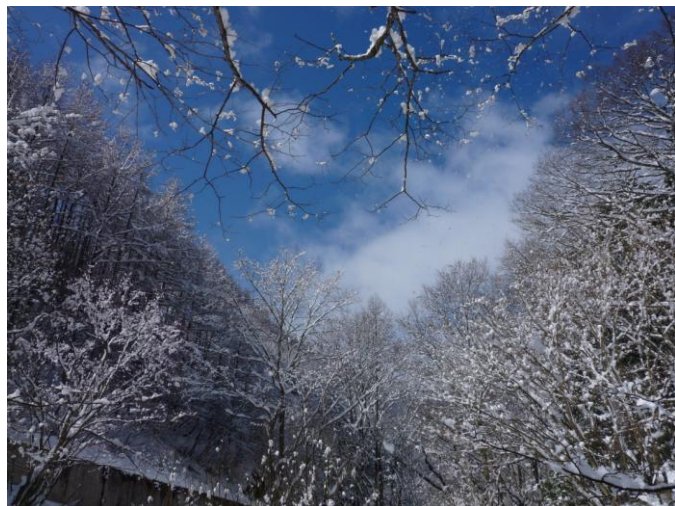
前武尊岳から少し下ると、剣ヶ峰の岩峰群の最初の岩場が現れた。結構険しそうに見える。夏道は巻き道も付けられていて、ここは矢作先生の判断で、巻道を進むことにした。

屏風のようにそそり立っている岩峰の下急斜面をトラバースすると、樹林帯の急斜面となった。ガスがかかっていて視界が悪く、先の尾根が見えない。この急斜面のトラバースに 1 時間もかかってしまった。トラバースのルートを上に取りすぎて、2 つの岩峰を一度に巻くはずが 1 つだけになってしまったのだった。もう少し下はかなり傾斜が緩く、そちらが巻道のルートだったのだろう。2 つ目の岩峰は稜線を超え、3 つ目の岩峰(北峰)はまた岩峰の西下側をトラバースしている巻道を進んだ。出発が遅かったこともあって岩峰群を超えたところで 5 時半になってしまい、家ノ串岳の手前のコルでテントを張ることにした。

この日は、山に入ってから結局一度も武尊岳をはっきりと拝むことができなかった。



きれいな旭小屋(避難小屋)の中。もうひと部屋ある。



青空がのぞく。



旭小屋の外観。



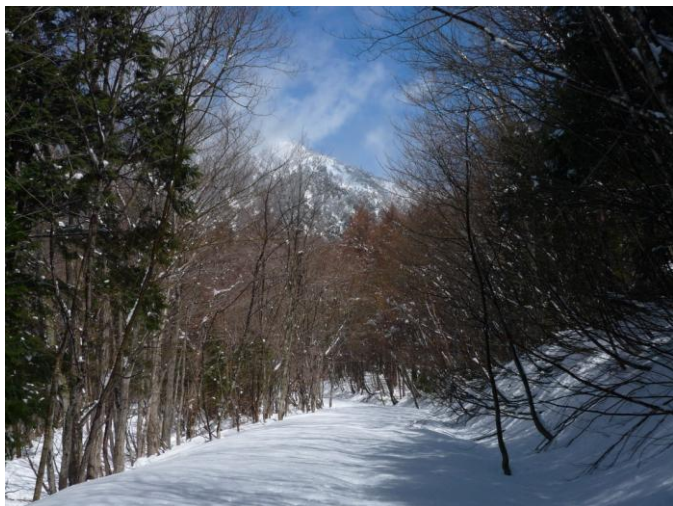
小屋の前の車道。スキー場へ向かう車が頻繁に脇を追い越して行く。



小屋の前を流れる小川。雪は一晩で積もった雪。



車道から川場野営場へ向かう林道に入る。新雪は膝下までであることが多く、歩きにくい。



正面には目指す前武尊岳。



中央奥に見えるのが不動岳。今回はコンディションが良くないのでやめることにした。



川場谷野営場避難小屋



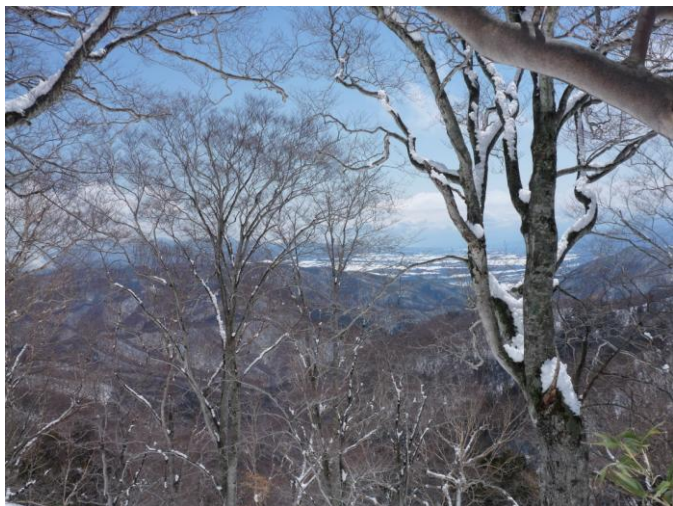
不動岳方面と天狗尾根方面の分岐。



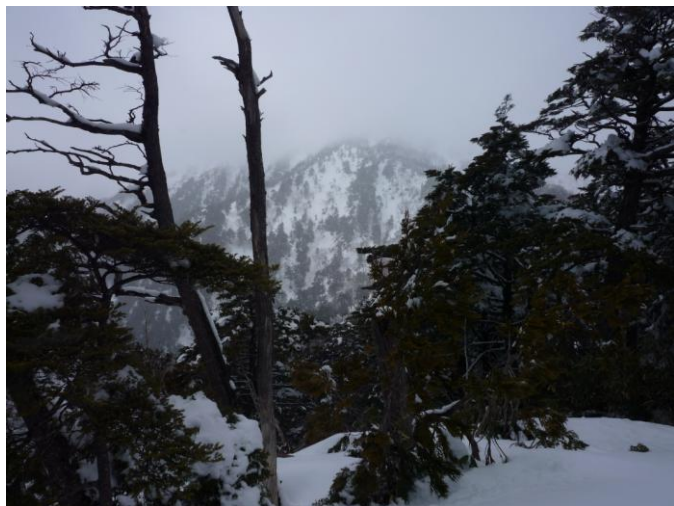
避難小屋からは山道。



新雪のラッセルを覚悟していたが、気温の上昇で急激に雪が解けてしまっていた。しかし、分岐から尾根までは急斜面が続き、結構苦しかった。



前橋方面の眺め。



これから進む前武尊岳の稜線はガスに包まれてしまった。



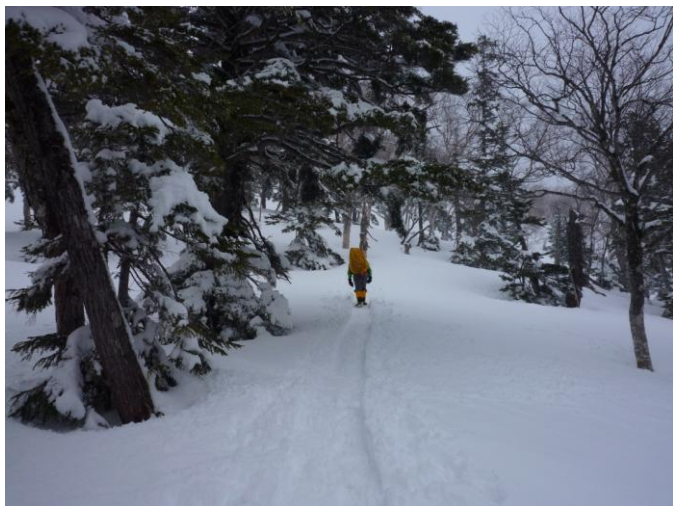
不動岳の稜線。



14時過ぎ、ようやく天狗尾根に出た。



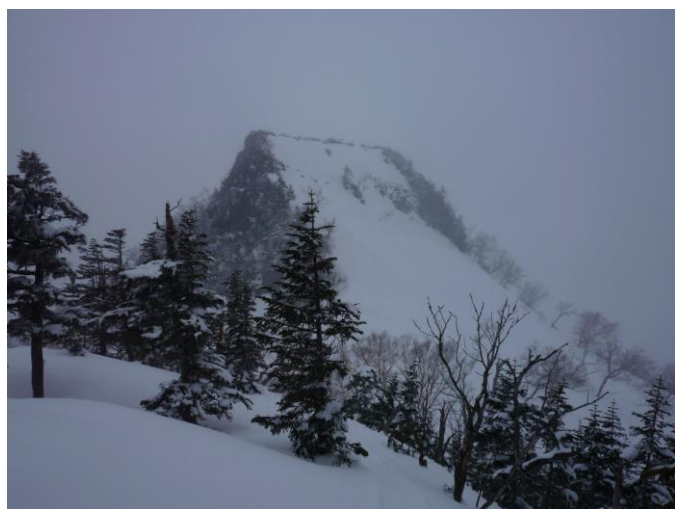
右手にオグナススキー場のリフト。ここ数年のうちにスキー場を拡大してとうとう天狗尾根の稜線までリフトが伸びてしまった。音楽を大音量で流していて本当にうるさい。



前武尊岳からなだらかな斜面を少し下ると・・・



前武尊岳山頂。



威圧感のある剣ヶ峰の岩峰が現れた。



日本武尊の銅像。屋根で覆われている。



矢作先生の判断で、稜線越しではなく、岩峰の下をトラバースする巻道を進むことに。



このトラバースに難儀した。この下はもっと傾斜が緩く、実際の巻道はもっと下のようなかった。



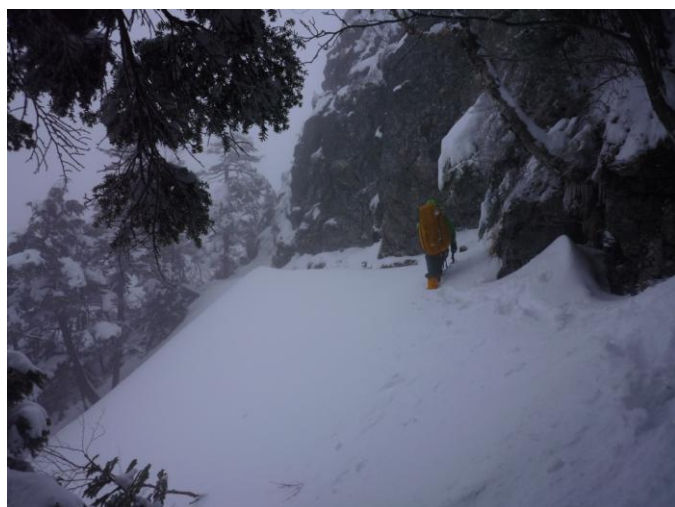
第2岩峰の下り。



ようやく稜線に出たと思ったら、第1岩峰と第2岩峰の間だった。



第2岩峰と第3岩峰(北峰)の間のコル。標識は、巻道を進むように示している。本当は、トラバースしてここに出る予定だった。



北峰も稜線を進まず、岩峰の下を巻く。



再び尾根に出た時はすでに 5 時を過ぎていた。このすぐ先に適当な場所を見つけて幕営した。

2 日目 (4 月 18 日(日))

起床	03:00	
幕営地	06:10 発	
家ノ串岳	07:00 着/発	
武尊岳	09:20 着	09:30 発
剣ヶ峰山	12:40 着	13:10 発
リフト終点	13:50 着/発	
スキー場駐車場	14:20 着	15:10 発(タクシー)
望郷の湯	15:40 着	17:30 発(タクシー)
沼田駅	18:00 着	(解散)
(歩行時間：約 6 時間半)		

夜中はかなり寒くて、2 人とも熟睡できず、3 時前に目が覚めてしまった。外は満天の星である。天気がよさそうなので早めに出発することにして、食事をして出発の準備をしたが、出発は結局 6 時になってしまった。

出発して家ノ串岳へのゆるい登りを進んでいると、稜線はガスに覆われてしまった。家ノ串岳のピークを過ぎ、稜線を進んで次の中ノ岳のピークを越えるが、天気は一向に良くならない。上越国境や尾瀬など周辺の山々の眺めを期待していたので、がっかりである。しかし、膝ほどの深さの硬くなった雪の稜線をつぼ足で進むうちに、上空の雲が時々切れて青空が覗き始めた。そして、昨日歩いた前武尊岳・剣ヶ峰から中ノ岳の稜線や、これから歩く武尊岳から剣ヶ峰山（武尊岳

には左右に 2 つ「剣ヶ峰」がある）の真っ白な稜線が時々ガスの中から見え隠れするようになった。雲が切れて遠くの景色が見えるたびに足を止めて景色に見とれ、写真を撮るので、進むのが遅くなる。9 時半、武尊岳山頂に到着。越後三山や谷川岳など周囲の山々はすそ野の方が見えるが残念ながら稜線は雲に覆われている。しかし、これから進む剣ヶ峰山とそこへ続く稜線が見事で、わくわくした気分になる。

さらに雲が消えて展望が良くなることを期待して山頂で 10 分ほど待ったが、風はそれほど強くはないもののやはりじっとしていると寒いので、先へ進むことにした。

山頂から急斜面を少し下ると、そこからはなだらかな尾根が続く。雪は脛～膝ほどの深さで、ときどき膝上まで潜る程度だが、雪が締まって重たい。とにかく正面の剣ヶ峰山が立派で、歩いていて大変気分がいい。やがて、上空の青空が広がり出し、周囲の山々をはっきりと姿を現し始めた。南は形の良い赤城山、袈裟丸～皇海山(すかいさん)の稜線、西には谷川岳の大岩壁、それに、何とんでもなく白毛門から巻機山と続き霞の中に消えていく真っ白な上越国境の稜線…。至仏山は武尊岳山頂に隠れて見えないが、私はゴールデンウィークに縦走を計画している平ヶ岳～越後三山の稜線もかすかに見えて、胸が高鳴る。

ふと、稜線の前方、剣ヶ峰山のピークの手前に人影が動くのに気づいた。2 人のようである。こちらに近づいてくる。間もなくすれ違って挨拶をする。60 歳前後思われる御夫婦だった。今日まで営業しているスキー場のリフトを利用して、武尊岳山頂までをピストンするとのことである。今回、山中で出会ったのはこのお二人だけだった。

周辺の山々はますますはっきりと見えるようになり、気分よく歩いていると、剣ヶ峰山のピークが近付いてきた。武尊岳山頂から見るとそそり立って険しく見え、「いったい登れるのだろうか？」と思ったが、近づいてみると大したことはなかった。難なくピークに立つ。前武尊岳～家ノ串岳の稜線の上に、日光白根山のピークが顔をのぞかせている。剣ヶ峰山ピークから少し下ると風が当たらない場所に出たので、休憩することにした。振り返ると、ピークのすぐ下の雪底に大きな亀裂が入って、今にも崩れそうだった。

周囲の素晴らしい展望を楽しみながら食事を取り、

出発。すぐ下にスキー場の最上部、リフトの終点がある。事前に調べた情報では、スキー場は先週末までの営業予定だったが、この大雪で営業期間を延ばしたのだろう。この先、登山道はリフトと何度か接して高手山、武尊高原キャンプ場の下になっている。私はスノーボーダーなどがたくさんいるスキー場には入りたくないでこのまま尾根を下りたかったが、矢作先生は「リフトで下ろう!」。ということで、リフトの終点で作業しているお兄さんに恐る恐る近づき、下りで乗せてもらえるかどうか聞いてみた。すると、小屋の中の上司らしき人が出てきて、「本当はチケットを買わないといけないのだがチケットは下でしか売っていないし、今日は最終日なのでお金はいらないです。」とありがたいお言葉。心から感謝してリフトに乗せてもらう。終点でリフトを降り、職員の皆さんにお礼を言う。しかし、下の駐車場までは、さらにもう1回リフトに乗るか、ゲレンデを歩いて下らないといけなかった。ゲレンデを下るのは気が引けるので、また次のリフト終点で係員の方をお願いをしてみたら、こちらでもまた同じ反応で、「ここではチケットを買えないので今回はお金はいいです。今度、スキー場に遊びに来て下さい。」と、またまた嬉しいことを言ってお下さる。またまた感謝しつつリフトに乗せてもらった。このスキー場（川場スキー場）の職員の皆さんは全員大変感じが良かった。それに、コースも面白そうなので、来季以降に遊びに来てみたい。

リフトを降りて、麓の駐車場で、行きに世話になったタクシーの運転手さんが感じのいい方だったので、迎えに来てもらうようお願いの電話をした。

運転手さんに近場にあるお勧めの温泉に連れて行ってほしいとお願いしたら、運転手さんの自宅近くにいいところがあるということで、そこに連れて行ってもらった。割引券を持っていると言ってわざわざ自宅によって割引券を下さった。

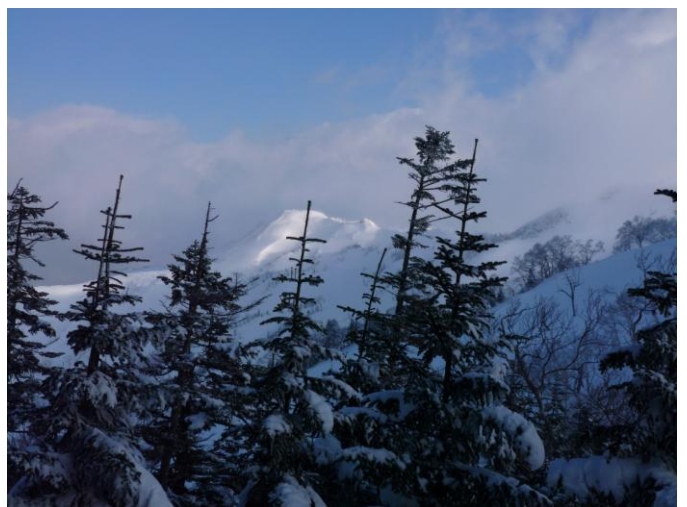
温泉前からは武尊岳の眺めが素晴らしかった。温泉でゆっくりして、再びその運転手さんに迎えに来て頂いた。矢作先生は上毛高原駅から新幹線で、私はすでに切符を買っていたので途中の沼田駅で降ろしてもらい、鈍行で帰京した。



家ノ串岳と剣ヶ峰北峰との間のコルにテントを張った。



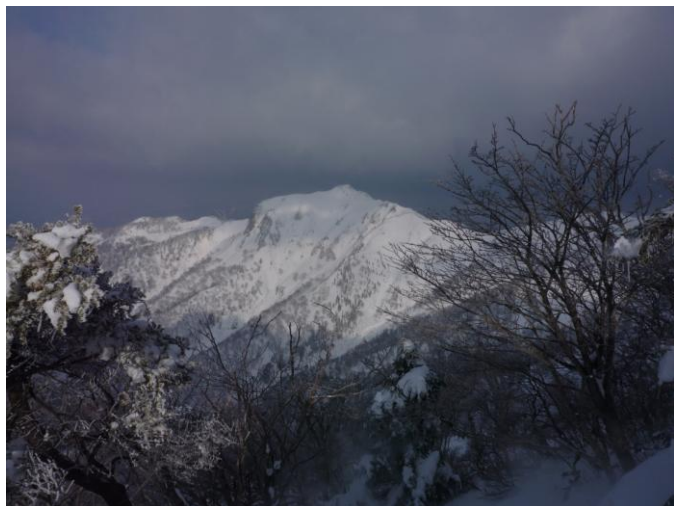
予報通り晴天。気分よく出発。



武尊岳山頂。



昨日超えてきた剣ヶ峰の岩場。風が強く、雪煙が上がる。



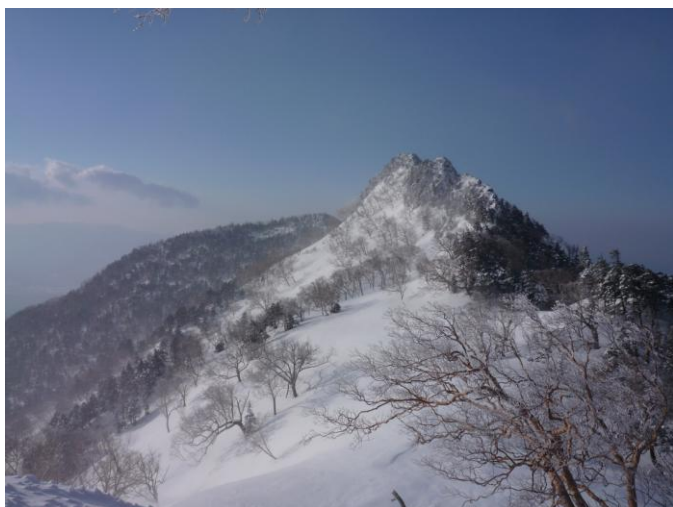
これから目指す剣ヶ峰山。



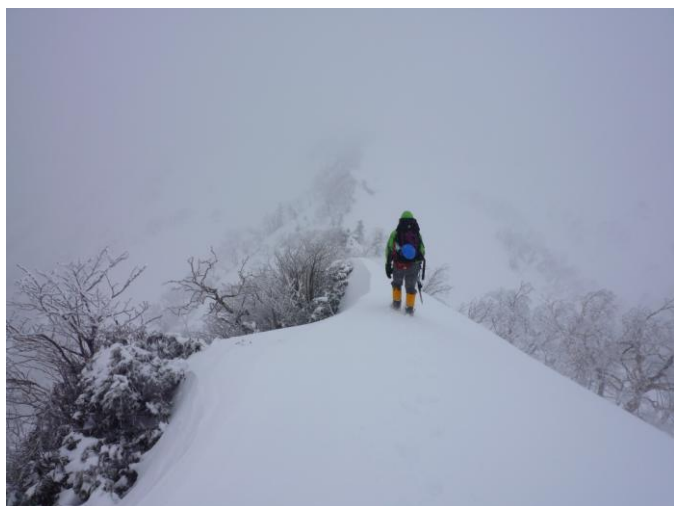
家ノ串岳への登り。



吹きだまりでは膝上まで新雪が積もっていた。



剣ヶ峰を振り返る。



ガスが出てきて視界が悪くなってしまった。家ノ串岳から中ノ岳への稜線。



「エビの尻尾」がすごい。



後を振り返る。



時々青空がのぞく。



武尊岳の山頂までもう少し。



中ノ岳を超え、武尊岳へ向かう。



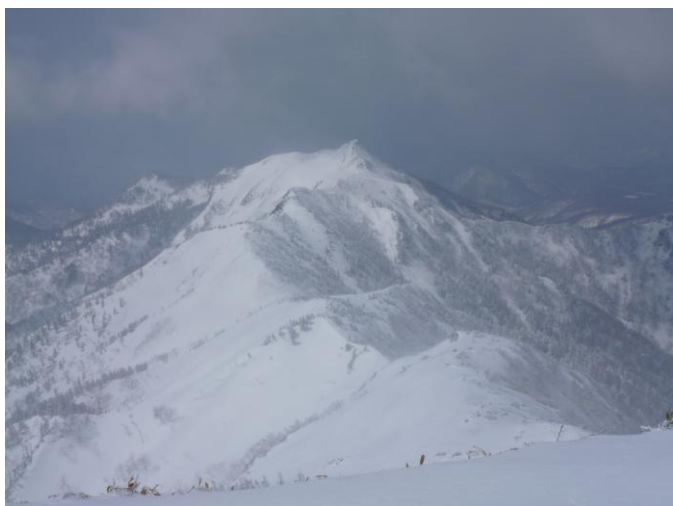
上州武尊岳(2158m)山頂に到着。



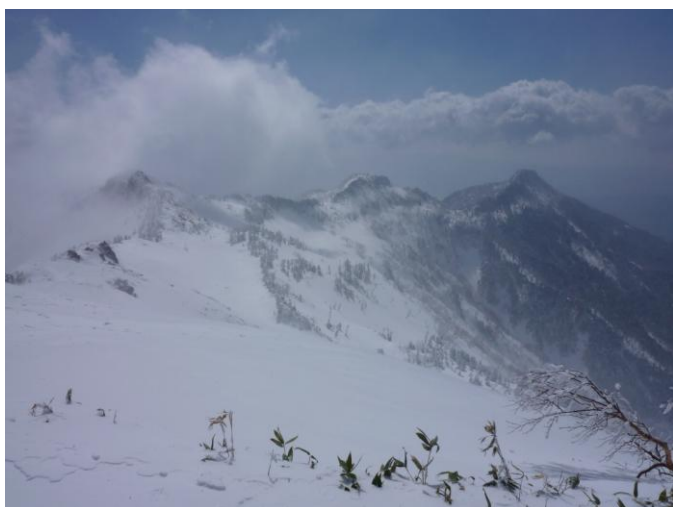
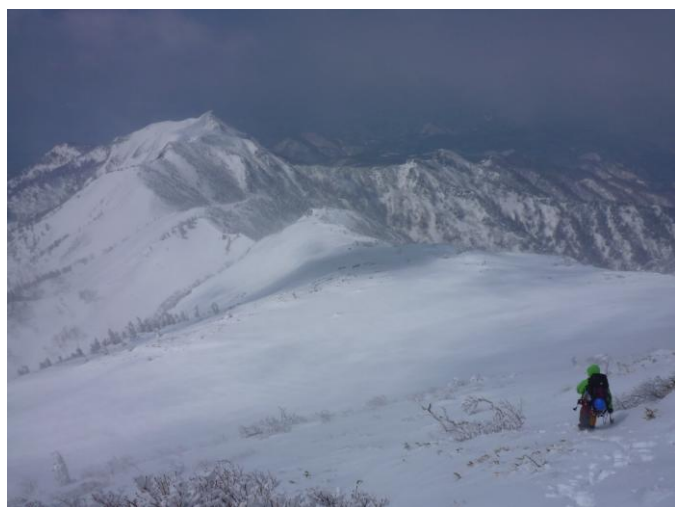
山頂に着くと、青空がどんどん広がり出した。剣ヶ峰と家ノ串岳。残念ながら、この時点ではまだ尾瀬や上越国境、谷川はガスで見えなかった、



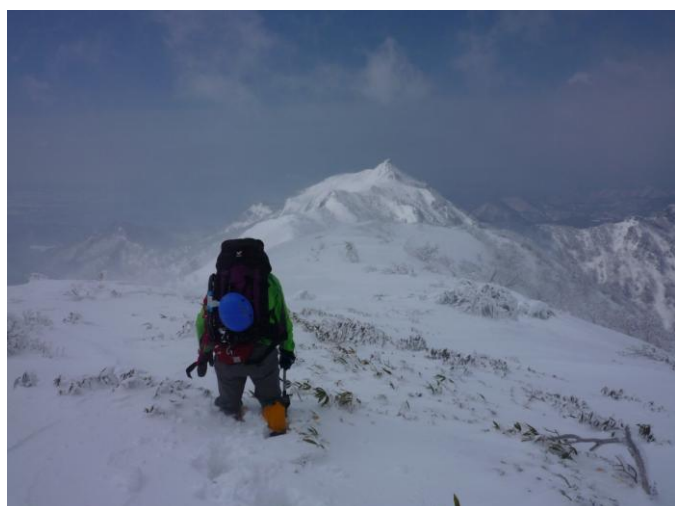
剣ヶ峰山を目指して山頂直下の急斜面を下る。

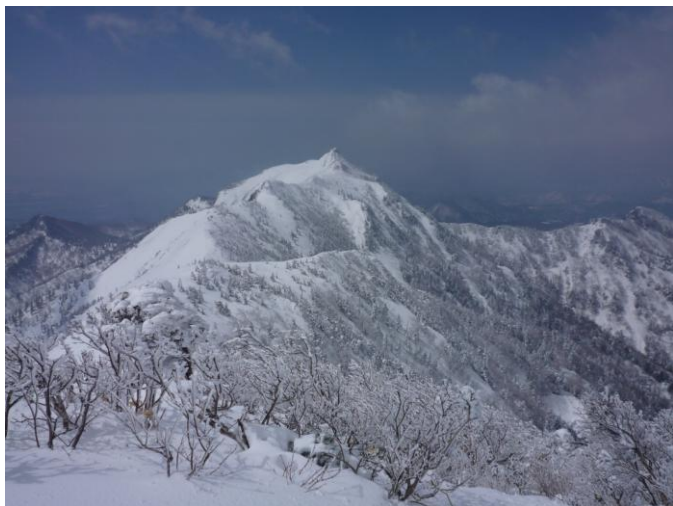


これから向かう剣ヶ峰山が見事。

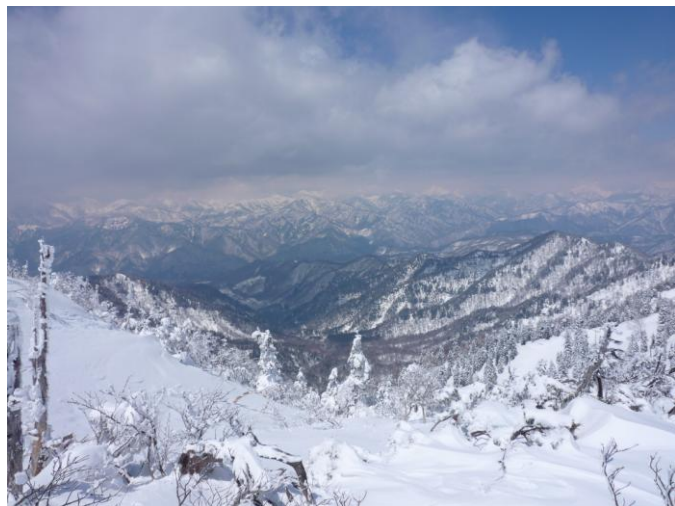


歩いてきた剣ヶ峰～家ノ串岳～中ノ岳の稜線。

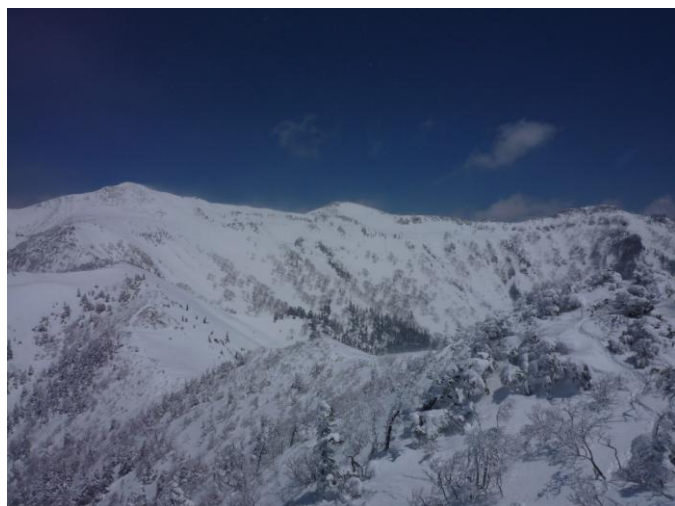
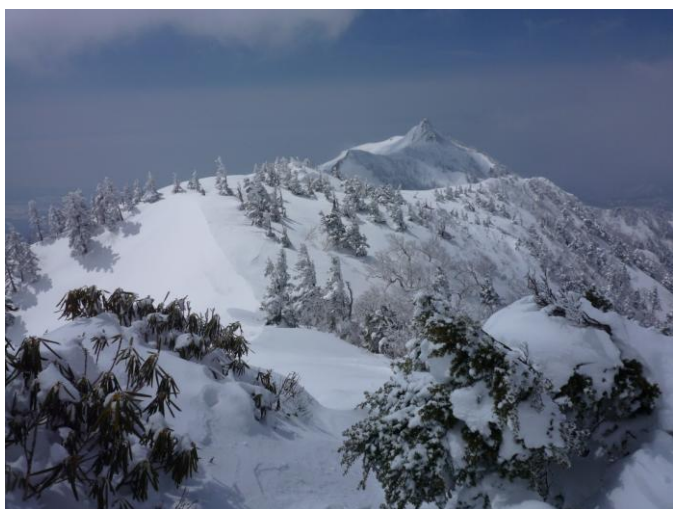




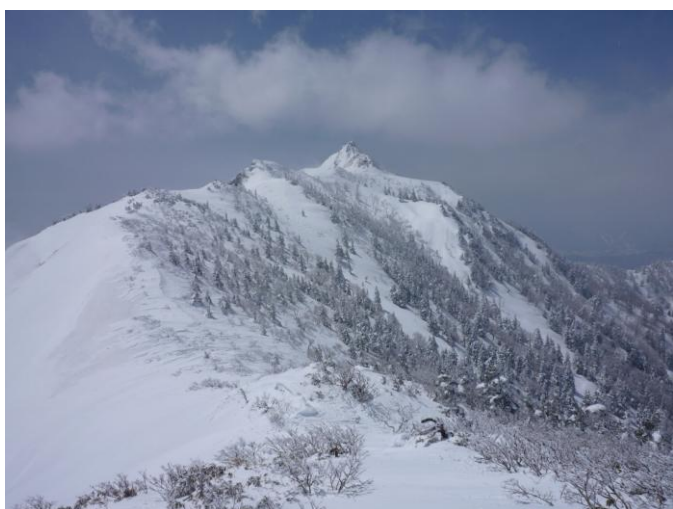
剣ヶ峰山が少しずつ近づく。



上越国境の方にかかっていた雲が上がり、豪雪地帯の山々が姿を現した。今回の山行で一番期待していた景色だったので、感激。



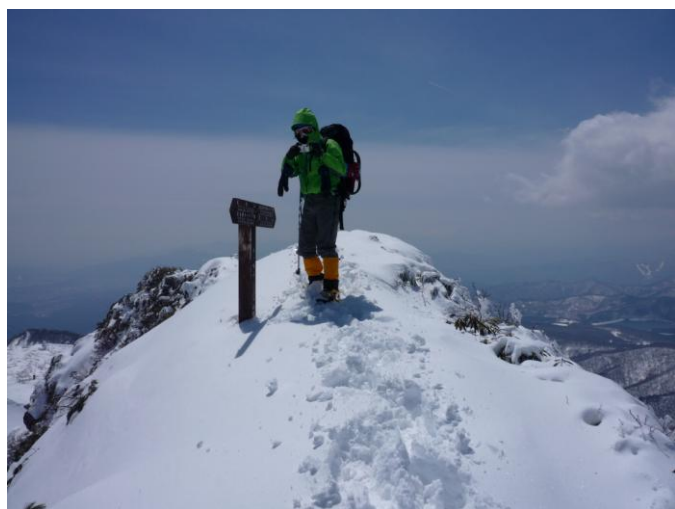
武尊岳を振り返る。
左は武尊岳、まん中の中ノ岳、右は家ノ串岳。



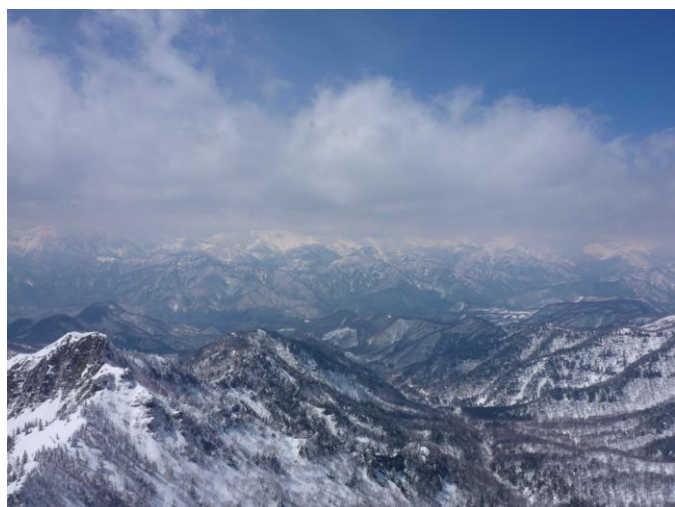
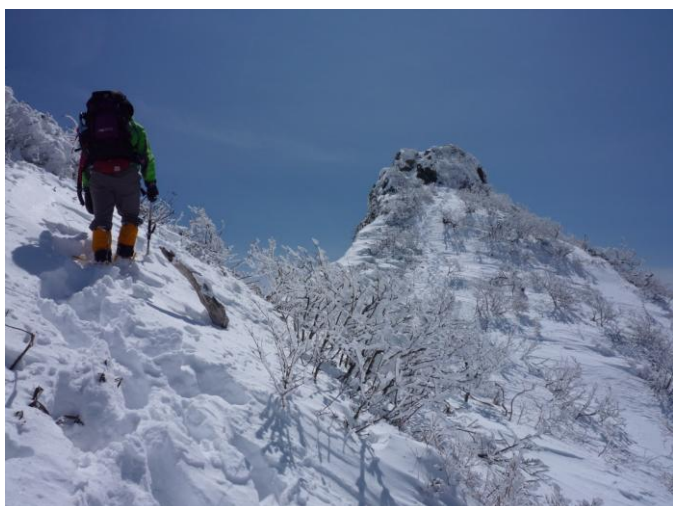
剣ヶ峰山のピークがさらに近づく。



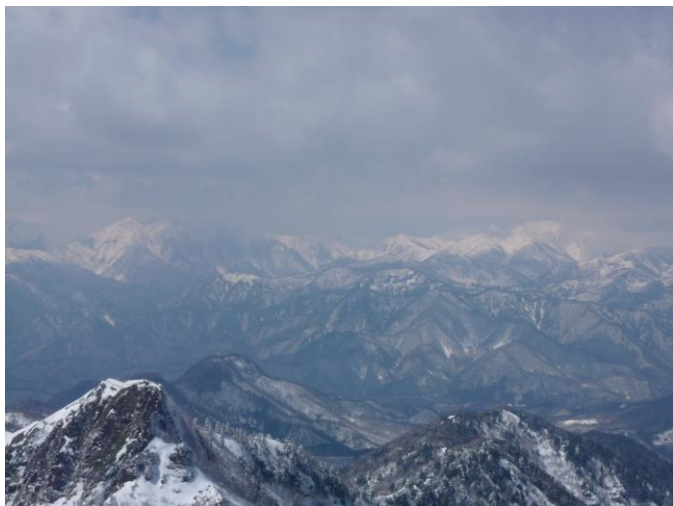
剣ヶ峰山山頂直下の登り。



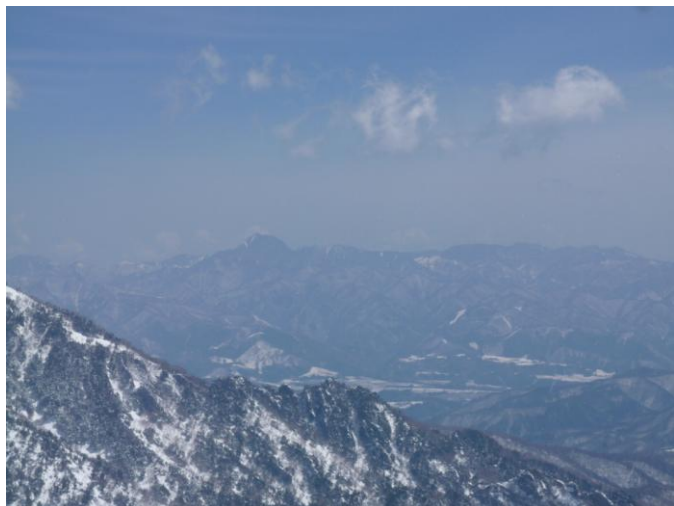
剣ヶ峰山(2020m)山頂に到着。武尊岳からの稜線は本当に気持ちの良い稜線で、この稜線歩きだけでも大満足だった。



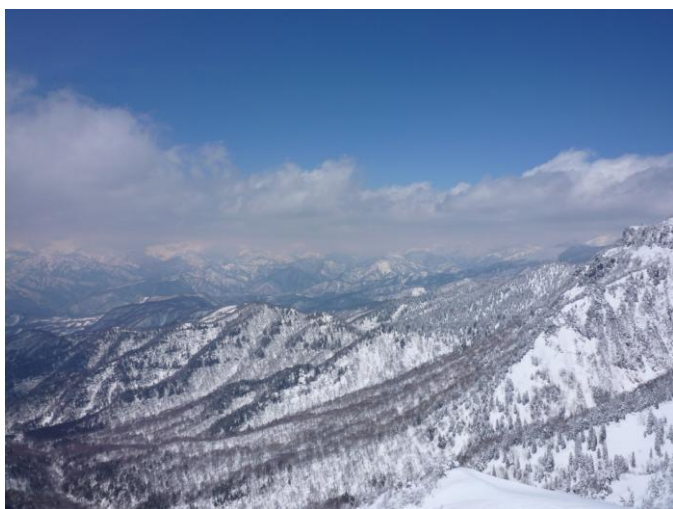
北の眺め。憧れの上越国境の山々。左端は谷川東面のの大岩壁。白毛門から巻機山、越後三山へと続く上越国境の稜線は真っ白。



左が谷川岳。右は朝日岳。



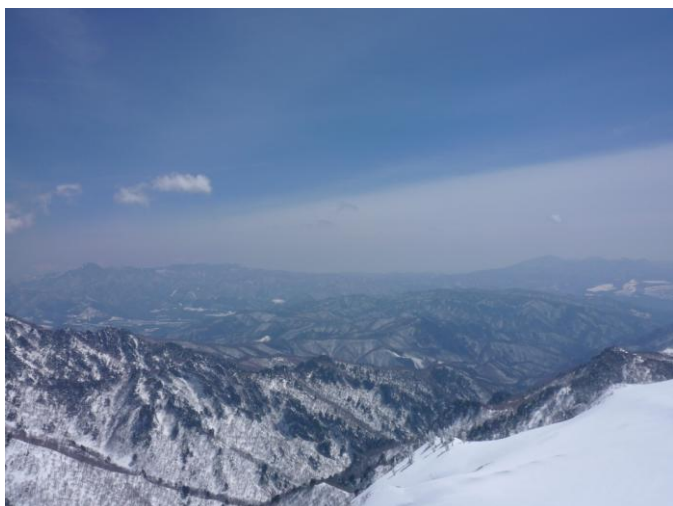
皇海山(中央やや右)と袈裟丸山の稜線。



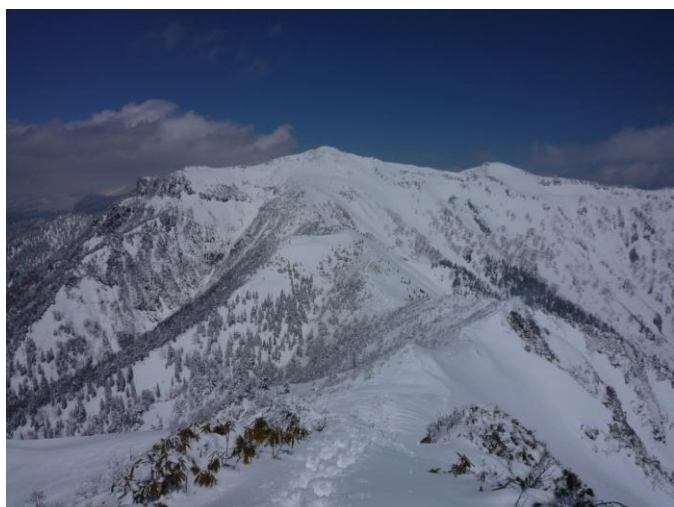
さらに右の方に目をやり、至仏山を探すが、残念ながら武尊岳に隠れて見えない。しかし、私がゴールデンウィークに単独縦走を計画している平ヶ岳(武尊岳の稜線から少し顔を出している)から越後三山方面へ続く稜線が霞の中にかすかに望まれ、胸が高鳴る。



山頂近くまで道路が通じていてあまり登りたいとは思わなかったが、こうして見ると赤城山は立派な山である。



南は赤城山(右)と皇海山(すかいさん)。



武尊岳はどっしり。



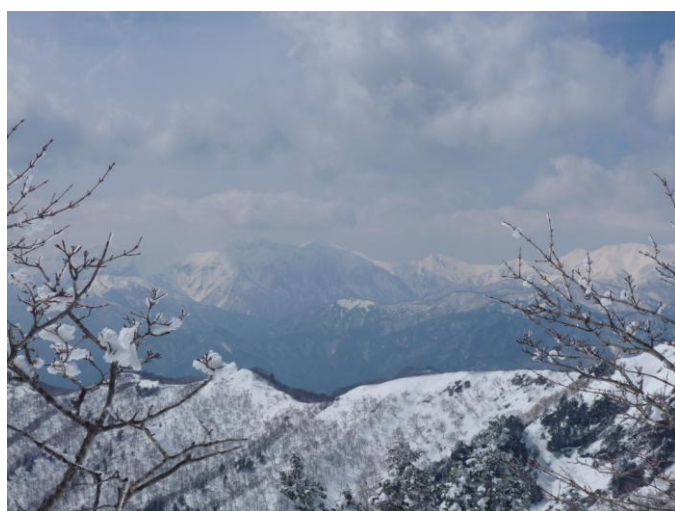
剣ヶ峰山のピークから少し下った先は風が当たらなかったもので、大休止。素晴らしい展望を楽しんだ。



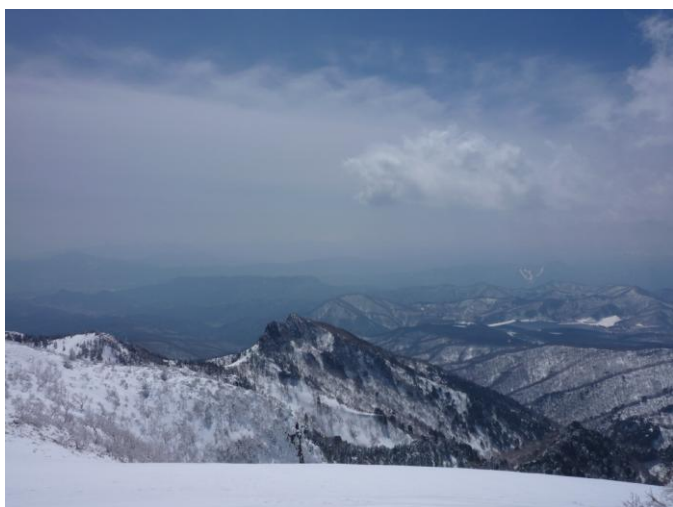
再び上越国境。



振り返ると、剣ヶ峰山のピーク直下の雪庇には大きな亀裂が。



谷川岳。



真っ白な浅間山が遠くに見える(写真中央)。



川場スキー場。ご厚意で、無料で下りのリフトに乗せて頂いた。感謝、感謝。



スキー場の入口まで、標高差 600m をリフトで下って
きてしまった。



温泉前からは武尊岳の全体が眺められる。縦走してき
たので感慨深い。中央の真っ白な武尊岳を真ん中に、
右に前武尊岳と剣ヶ峰、左に剣ヶ峰山が並び、大変見
事な山容をなしている。ちなみに、温泉の駐車場はい
っぱいで、大半が県外ナンバーだった。



お世話になったタクシーの運転手さんお勧めの温泉
「望郷の湯」。露店風呂から赤城山が見える。ぬるめ
で、いいお湯だった。